

# イチゴの栽培

大西 康之 農家の指導

# いきいき 菜園生活



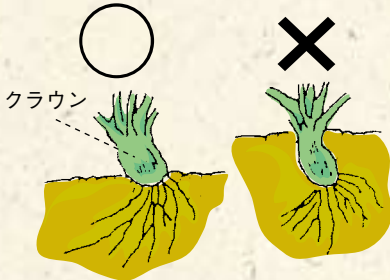
イチゴは、栽培する最初の年は苗を購入しますが、翌年からは実の収穫が終わった株を親株として苗とりに利用することができます。



企画営業課 大西 康之

## イチゴの栽培

### 苗の植え付け方



深植えは禁物です。クラウン(中心の生長部分)の下が少し隠れる程度とします。

**◆ 植え付け**  
購入苗、または仮植して育てた苗を10月下旬～11月上旬頃に、うね幅120センチ、条間70センチ、株間25～30センチの2条植えに浅植えします。

**◆ 畑の準備**  
植え付けの2週間前までに、10平方メートル当たり堆肥30キロ、B.M.ようりん600グラム、苦土石灰1キロ、化成肥料1キロ、油粕3キロを目安に施用し、土となじませておきます。

イチゴは光を多く必要とする作物ですので、日当たりの良い場所を選定します。  
また、根の張る範囲が浅く土壌の乾燥に弱いので、完熟堆肥を施用したり土を深く耕すなどの土づくりを心掛けましょう。

## イチゴの栽培

**◆ マルチング**  
イチゴは、一定の期間、低温に充てないと新しい葉が開かない休眠特性があります。平年では、一定の期間が

**◆ 追肥**  
第1回目の追肥は11月下旬頃に、また第2回目は2月上旬頃に、それぞれ10平方メートル当たり化成肥料100グラム、油粕300グラムを目安として、うねの両側の根を切らない程度のところに浅く溝をつくり、そこにバラまいて覆土をしておきます。



ランナーの切り口を畝の内側に向けて植え付けます。

植え付けの方法は、株のもとから発生しているランナー(つる)の切り口を、うねの内側に向けて植え付けるようにします。こうして植え付けておくと、うねの外側に花が咲き実を着けることになるので、後の管理や収穫がしやすくなります。  
なお、植え付け後は十分に水やりを行います。

覆ったあとから、切れ目を入れ、株を引き出します。



経過したと考えることができる時期の2月中旬頃に、マルチングを行います。  
マルチングの方法は、枯れた葉や老葉を取り除き、うねに水分がある降雨後に黒マルチを覆い、株の上をカミソリなどで切り開き、株を引き出してやります。  
なお、降雪のある地域では、雪害や寒害から株を守るために、降雪前にマルチングを実施し、雪どけ後に引き出してやる方法もあります。

## イチゴの栽培